



地域学校協働活動

地域と学校をつなぐ コーディネーター 応援 BOOK



■お問い合わせ先

特定非営利活動法人

まなびのたね ネットワーク

〒980-0811 宮城県仙台市青葉区一番町1丁目 6-22 シャンボール一番町 704

Tel : 022-707-0122 Fax : 022-707-0497

E-mail : info@manabinotane.net URL : <http://www.manabinotane.net/>

INDEX

はじめに	P02
地域学校協働活動が、なぜ必要なの？	P03
地域学校協働活動推進員って？	P04
地域学校協働活動で、それぞれにいいことは？	P05
地域コーディネーターって、どんな役割？	P07
統括コーディネーターって、どんな役割？	P08
地域コーディネーターの具体的な仕事って何だろう？	P09
先生に連絡するには、いつ、どうしたらいい？	P11
新年度、スタートが大切！コーディネーターとして何をすればいい？	P13
地域コーディネーターに役立つスキルって何だろう？	P15
協力してくれるボランティアをどうやって探す？	P17
ボランティアが気持ちよく活動するために どんな準備が必要？	P19
もっとボランティアが活躍するには？	P21
地域から学校への要望 「こんなことしたい」と言われたら？	P23
事例紹介1 仙台市 小1生活・学習サポーター	P25
事例紹介2 登米市のキャリアセミナー	P27
事例紹介3 たくさんのボランティアが活躍しています！	P29
事例紹介4 全校遠足の見守り	P31
事例紹介5 書写サポーター	P32
事例紹介6 衣装づくりボランティア	P33
現役コーディネーター座談会	P35
地域学校協働活動推進までの動き	P37

※本冊子は、
平成29年11月宮城県教育委員会発行【はじめよう！『地域学校協働活動』～「みやぎの協働教育」が目指す新たな地域と学校の連携・協働に向けて～】
平成31年3月宮城県教育委員会発行【つなげよう！『地域学校協働活動』（事例集）「みやぎの協働教育」が目指す新たな地域と学校の連携・協働に向けて～】
と併せてご活用ください。

はじめに

学校と地域をつなぐ、コーディネーターによる
コーディネーターのための応援BOOK作成にあたって

子供たちが自分らしく幸せに生きるためには、子供たちが予測困難なこれからの社会を生きていくには、私たち大人は、何をどうしたらいいのでしょうか？

その答えの一つが家庭・地域・学校が連携・協働し、社会全体で子供たちを育てることです。文部科学省では、そうした活動を「地域学校協働活動」として推進しています。

宮城県では平成17年から、「みやぎらしい協働教育推進事業」として、家庭・地域・学校が相互に支え合い、協働で子供たちを育てる仕組みづくりを推進してきました。平成29年度からは「宮城県協働教育推進総合事業」として、各市町村における地域と学校の連携・協働体制の一層の強化と取組の促進を図っています。

私自身も平成23年3月11日の東日本大震災を経て、コーディネーターとしても改めて協働教育の重要性和必要性を痛感しました。

地域学校協働活動を推進するにあたり、コーディネーターがカギになることは間違いありません。平成29年3月に改正された社会教育法では、教育委員会が地域住民等に地域学校協働活動推進員を委嘱できるようになり、コーディネーターが活動しやすくなるよう法整備がなされました。

このコーディネーター応援BOOKは、東日本大震災後、宮城県内で地域と学校をつなぐコーディネーターとして活動する有志が集い、何度も意見交換を重ね、お互いの現場を視察し、2年かけて本冊子を作成しました。現場で動くコーディネーターとして、時に悩み、時に迷い、時に喜びややりがいを感じながら、実践を積み重ねてきたからこそ、伝えられることや活動のヒントになることがあるのではと思っています。平成30年度には、本冊子で取り上げている2事例について、コーディネーターの動きに焦点化した動画を制作しました。映像を通して、コーディネーターに対する理解が深まり、地域学校協働活動推進の一助になれば幸いです。

全ての子供たちの笑顔と成長を願い、豊かな学びの場を創り出す仲間に向けて、この冊子と動画が少しでも役に立つことを祈っております。

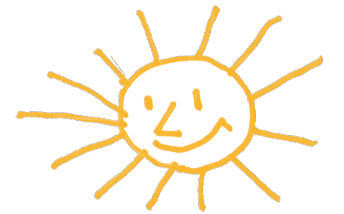
平成 31年 3月



代表理事 伊勢みゆき

地域学校協働活動で、 それぞれにいいことは？

子供たちに豊かな学びや体験を。
子供たちの地域への愛着と誇りを。
社会総掛かりによる教育の実現に向けて
新人コーディネーターが
ベテランコーディネーターに聞きました



地域と学校がつながると、いいことは？

何より実感したのは、2011年の東日本大震災の時です。地域の方が学校の教育活動に日常的に関わってくれていたからこそ、避難所運営がスムーズにできました。どんなに大変な時でも子供たちを一番に考え、子供たちにとっての日常である「学校生活」を送れるよう協力してくれました。

地域と学校がつながり、先生方が地域の情報を得たり、良好な関係を築いたりすることは「命を守ること」「共に助け合えること」につながり、結果的に地域の防災力を高めることになると実感しました。東日本大震災を通してお互いを「知る」ことの大切さを学びました。

先生にとって、いいことは？

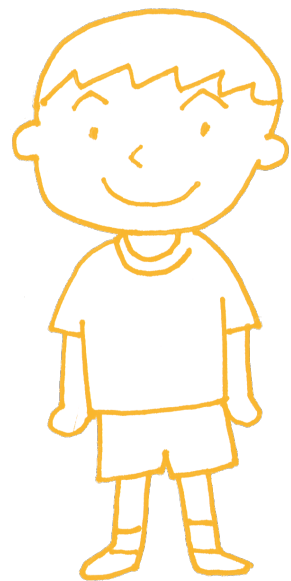
教育活動の中で子供たちを見守る目が増えることは、**子供たちが安心して学べる学習環境づくりにもつながります。**

今の先生は本当に忙しいです。地域住民が学校に入ることでも仕事が増えるのでは？と考える先生もいます。でも、地域住民の協力で行う様々な地域学校協働活動によって、**先生が授業や生活指導により力を注ぐことができる**というデータもあります^{※1}。

教育活動への協力者を増やすことは、学校や先生の理解者を増やすことにもなります。

子供たちにとって、いいことは？

子供たちは地域住民との交流を通して、様々な体験や経験の場が増え、**コミュニケーション能力の向上につながっている、さらに地域への理解・関心が深まった**という効果が表れています^{※1}。それだけではなく、**保護者や地域住民の地域学校協働活動が進んでいる学校ほど学力が高い!**というデータもあります^{※2}。様々な場面で、たくさんの大人と関わることは、子供たちにとって学習意義を実感し、学習意欲につながると考えられます。様々な共有体験を通して、**子供たちは自分を大切に思う自尊感情や、自分を好きと言える自己肯定感を高めることにつながります**^{※3}。子供たちが信頼できる大人と関わることは、豊かな心を育むと期待されています。子供が中学校で不登校になった時、小学校で関わったボランティアに相談し心の支えになったという例もあります。



地域住民にとって、いいことは？

どんな地域にも子供たちのために何かしたい!と思っている人が必ずいます。地域住民の持つ知識や技能、学びの成果が子供たちの教育活動の中で生かされることは、何より**地域住民の生きがいや自己実現の機会**となります^{※1}。また、地域住民が学校を支援することを通して、**地域の教育力が向上し、地域の活性化にもつながります**^{※1}。地域住民が子供たちと顔が見える関係ができると、**地域の中でもコミュニケーションが取れる関係**となります。

学校での学びを核として、保護者や地域住民の**ネットワークや地域コミュニティづくり**にもつながっていき、将来的に**地域づくりの担い手を育てる**ことにもつながっていきます。



保護者にとって、いいことは？

子供たちが育つ家庭環境は、益々多様化しています。保護者の経済力が高いほど子供の学力も高いというデータもあります^{※2}。家庭の教育力により学力や体験活動の格差が生じているのも事実。子供たちの学びを通して、**保護者も地域を知り、大人の学びにもつながっていきます。**さらに授業の一環として、子供たちが様々な体験活動を行うことは、**家庭内で親子間の会話のきっかけ**ともなります。

保護者が地域学校協働活動に関わることで、自分の子供だけでなく地域の子供たちの成長を知ることになり、**自分の子育てにもプラスの影響を感じる**こともできるでしょう。様々な世代との交流が地域力向上につながります。

※1：「平成27年度地域学校協働活動に関するアンケート調査」文部科学省・国立教育政策研究所 のデータより

※2：「平成25年度全国学力・学習状況調査（きめ細かい調査）の結果を活用した学力に影響を与える要因分析に関する調査研究」国立大学法人お茶の水女子大学 平成26年3月 のデータより

※3：参考文献「いのちの教育の理論と実践」近藤卓著 金子書房

地域コーディネーターの動き例

事前

- **ボランティアと打合せ調整**
先生の要望に合うボランティアへ打診し、打合せ日程を調整します。
- **書類作成・準備**
授業や活動に向けた関係書類（打合せシート）等を作成します。
先生と調整して、必要な書類の準備も行います。

当日

- **会場設営**
授業等で使用する教室や機材等を準備します。
- **ボランティアの対応**
授業や活動に関わるボランティアを出迎え、管理職や担当教員に紹介します。
- **直前の打合せ**
活動前に再度、授業や活動のねらい、目標を確認します。守秘義務や留意事項についてもボランティアに伝えます。
- **授業・活動の記録**
写真や動画、メモなどで記録します。
- **振り返り**
授業や活動後に、振り返りを行います。

事後

- **書類作成・お礼状の送付**
活動報告書やお便りを作成します。ボランティアへのお礼状も作成し、子供たちの感想文や写真もお礼として送ります。

地域コーディネーターってどんな役割？

地域と学校をつなぐパイプ役

先輩コーディネーターの動きを見学してみよう！



学校のニーズと目標の共有

定期的に学校を訪問し、先生方と話す機会を積極的につくります。先生方の「○○したい」「○○できる人いないかな」の声に耳を傾けると、ニーズの把握につながります。その活動（授業）を通して、子供たちにどんな資質・能力・態度を育みたいか、目標やねらいを共有することが大切です。

地域のニーズと意思の把握

各種会合やイベント等に参加し、地域住民の思いやニーズ（要望）等を把握します。ボランティアの確保にもつながります。

ニーズとシーズのマッチング

学校のニーズに応じて、適した方へ声掛けし、ボランティアの依頼をします。地域のニーズは学校への提案につながりますが、場合によっては慎重な連絡・調整が必要です。

活動実践に向けた連絡・調整

活動の実施に向け、先生（地域連携担当者や担当学年）や学校の事情を理解した上での調整が必要です（P23-24参照）。ボランティアと一緒に打合せを行います。当日をイメージして行くとそれぞれの動きや必要な準備物等が見えてきます。

活動当日の支援・記録

当日は子供たちのためにボランティアが活動しやすいよう、活動の支援や記録を取ります。

活動に関わる情報の収集・発信

活動に必要なボランティアの募集や、実践した活動についてお便り等を作成し、情報発信を行います。地域学校協働活動となる地域イベント等の情報収集・発信も行います。また、協力したボランティアへのお礼状の送付も大切です。

学校とボランティアのネットワークづくり

継続的・発展的な活動につなげるには、子供たちのために関わった大人が集う場を設け、顔が見える関係づくりをすることが大切です。

活動等の提案

支援から連携・協働に促していくためには、地域コーディネーターから多様な地域住民が参画しやすいような企画を提案していくことも必要です。

統括コーディネーターってどんな役割？

地域学校協働活動を推進する旗振り役、そして地域コーディネーターを支える頼もしい相談役

先行地域へのヒアリングや活動を見学してみよう！



地域全体の地域学校協働活動等の企画・調整

地域全体を見て、それぞれの活動の企画を考え、講師やボランティアの調整等運営全般を考え進めていきます。場合によっては、ボランティアや先生、地域コーディネーターが一堂に集う場をつくることも大切です。

地域コーディネーターの発掘・人材確保

地域コーディネーターの適任者を見つけることは、最重要課題ともいえます。地域が学校を支援することから始めると、地域と学校の連携・協働につながりやすくなります。地域コーディネーターは、先生方の思いをくみ、子供たちや地域への愛情があって、フットワークの軽い方が向いている傾向があります。

地域コーディネーター同士のネットワークづくり

地域コーディネーターは時に孤独。一番の相談役ともなり得るのが統括コーディネーターです。だからこそ負担が大きくなることも。地域コーディネーター同士の情報交換や共有の場をつくることは重要です。結果としてネットワークづくりにつながります。

地域コーディネーターの資質向上を図る研修

地域コーディネーターになる方の資質・能力は個人差があります。また経験年数に応じて感じる課題も様々。地域コーディネーターの現状を把握し、資質・能力を高める研修を企画するのも統括コーディネーターの大事な役割です。

地域学校協働活動に関する事例の収集・情報提供

地域コーディネーターの実践事例を収集し報告書にまとめます。また、統括コーディネーターが参加した研修会等で得た最新の情報や先行事例等の情報を提供します。コーディネーターが参加した研修会等で得た様々な情報を共有します。

各地域の地域学校協働活動の充実・活性化に向けた働き掛け

地域全体が見える統括コーディネーターだからこそ見えてくる地域の魅力や課題もあります。各地域のカラーを生かしながら、地域学校協働活動をすすめていけるといいですね。

統括コーディネーターの動き例 (教育委員会 所属のケース)

午前

- **打合せやメールチェック**
関係職員と打合せ。学校教育課への情報提供や教育長説明、関係機関との情報交換を行います。
- **研修会の企画**
地域コーディネーターやボランティア対象の研修会の企画書を作成。学校等との日程調整をします。
教育長説明、教育研究所との情報交換を行い、良好な関係づくりを心掛けます。

午後

- **活動支援**
地域コーディネーターと連絡・相談を受け、大きな活動の際には一緒に活動に入り、フォローします。
必要に応じて、学校やボランティアとの打合せにも入ります。地域コーディネーターとは出来るだけ顔を合わせるよう心掛けます。
- **外部対応**
他市町村の視察やヒアリングの対応をすることも。地域の企業等を訪問して、事業説明や講師依頼の協力依頼も行います。

地域コーディネーターの具体的な仕事って何だろう？

県内で活躍するコーディネーターが実践している方法をご紹介します。

学校のニーズを把握する

ニーズ把握のためのシートを作成し、年度末に各学校の先生（地域連携担当など）に添書とともに渡しています。新年度、各学校で必要なボランティアの希望を取っています。

校長 ●● ● ● 様

平成30年 月 日

〇〇市教育委員会 〇〇 事務所 所 長 〇〇 〇〇 (公印省略)

平成30年度 学校支援ボランティアの派遣予定把握について (お願い)

時下 益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。
さて、平成30年度の学校支援ボランティア派遣について、予め把握できる部分については把握し、ボランティアの方と事前調整を行いたいので、ご多忙のところ誠に恐縮ですが、各先生方の “つぶやき”を含め希望を掌握いただき、別紙参考資料の要領で取りまとめの上、〇月〇日 (〇) 頃までお知らせを願えればと存じます。

※様式については、小・中各校の教頭・副校長先生宛メールでお届けいたします。
※お願い：報告については、メールでいただければ幸いです。

担当：〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
コーディネーター 〇〇 〇〇
TEL 0000-00-0000 (内線0000)
FAX 0000-00-0000

添書

※ 資料提供：登米市教育委員会

平成〇〇年度 〇〇小学校協働教育推進に関するボランティア希望一覧 (参考資料)

No.	学年	活動名(教科・領域)	どんな活動を手伝ってほしいか	いつ頃	何人位	目安の時間
1	1	下校時の見守り	・徒歩通学の児童の見守りとバス通学の児童が停留所から歩いて帰宅するときの見守り。	4~6月		30分間
2	4	キュウリの仕事(総合)	・地場産果の1つであるキュウリの栽培について講義と栽培の支援をいただきたい。	植え付けから収穫まで	1~2人	
3	全	引き渡し訓練	・迎えに来る保護者の車の交通整理をしていただきたい。	6月12日	4~5人	2時間
4	1	校外学習の見守り	・校外学習のをするときの見守りと声かけ。	9月1日	2~3人	4時間
5	2	まち探検(生活科)	・子どもたちがまちを探索するとき各グループへ付き添い、安全へ配慮するように声かけをする。	9月	4人	2時間
6	1	リースづくり(生活科)	・つるをていねいに外してリースを作るときに切らないように注意して作業するように見守る。	9月上旬	2人	2時間
7	5,6	ミシン指導(家庭科)	・ミシン指導の時のミシン整備、作業の見守り。	9月~10月	4~5人	1時間×回
8	5	食糧引率(特別活動)	・豊山と沢遊びの引率と見守りで、安全に配慮するように声かけをする。	10月1日~3日	2~3人	
9	全	持久走大会見守り	・持久走大会の練習の時に校地外に出て練習を行う。安全確保の点から、見守りにご協力をいただきたい。	10~11月	4~5人	
10	全	交流会	・餅汁作りのお手伝い。	11月21日	2~3人	2時間
11	5	漬け物を作ろう(総合)	・地場産野菜の保存食である漬け物の作り方の説明と実演。	1月	2~3人	1時間
12	6	戦争体験を聞く会(社会科)	・戦争の体験を聞き、戦争の悲惨さや当時の日本国内での生活について知る。	12月	2人	1時間
13	低	昔の遊び(生活科)	・生活科の授業の中にある昔の遊びの講師として、昔の遊びを教えてほしい。	1月	5~6人	1時間
14	3	昭和の暮らし(社会科)	・昭和の生活を紙芝居にして、出前講座をして下さる方。(読み聞かせ 〇〇〇さんから紹介)	2月	1人	30分間
15	4	歴史・合風の話(社会科)	・4年(総合・社会)		各1人	1時間
16	全	読み聞かせ	・各教室での読み聞かせ	通年	5人	10分
17	全	学校園精起等作業	・学校園を精起していただき、堆肥を入れてもらう。	4月		
18	全	除草・剪定作業	・学校の校地が広いため、除草作業が遠いつかない。植木も伸びている。適宜、除草や剪定をしていただきたい。			
19	全	窓ふき	・児童の手が届かない高い窓などの清掃にご協力をいただきたい。			
20	全	校庭整地作業	・雨が降ると校庭に足跡などが付き、荒れてしまう。それをトラクターや鉄の棒を牽引するなどして整地してほしいです。	随時	2~3人	

ニーズ把握シート

事前打合せで

情報を共有する

実際の活動に関わるボランティアとの調整が終わったら、先生、ボランティア、コーディネーターの3者で事前打合せを行います。その際、授業や活動の目標やねらいを共有したり、詳細を決定します。コーディネーターはその内容を校内で回覧できるよう1枚にまとめます。ポイントは、関係者全員が押印できる欄を上部に入れ、しっかりと情報を共有しておくことです。

※ 資料提供：仙台市立東六番丁小学校
学校支援地域本部

東六番丁小学校 学校支援地域本部《No. 》

決着月日	校長	教頭	教務主任	事務主任	担当
月 年 日					

記入日：① 月 日 (学校) → ② 月 日 (学校) → ③ 月 日 (学校) → ④ 月 日 (学校) → ⑤ 月 日 (学校) → ⑥ 月 日 (学校) → ⑦ 月 日 (学校) → ⑧ 月 日 (学校) → ⑨ 月 日 (学校) → ⑩ 月 日 (学校) → ⑪ 月 日 (学校) → ⑫ 月 日 (学校)

学 校 記 入 欄	
依頼担当者	年
依頼する活動内容(教科・単元など)	
授業・活動のねらい	
依頼内容	
支援ボランティアとの打合せ日時	希望する・希望しない 第1希望 月 日 () : ~ 第2希望 月 日 () : ~ 第3希望 月 日 () : ~
授業・活動支援希望日時	第1希望 月 日 () 時間目 第2希望 月 日 () 時間目 第3希望 月 日 () 時間目
連絡・留意事項	
学 校 支 援 地 域 本 部 記 入 欄	
当日スケジュール	： 来校 → ： 校長先生へ挨拶 → 準備 → ： 担任と打合せ → ： ~ ： 授業 → ： 片付け → 校長先生へ挨拶 → 終了
外部講師情報	
講師派遣依頼文書の発行	要・不要 送付先
備 考	
学校支援地域本部 連絡先	XXXXXXXX 支援本部携帯：000-0000-0000 abcd@abcxxx.xx.xx
■に■学校支援ボランティア (外部講師) 連絡表■に■	

学校支援ボランティア連絡シート

学校支援ボランティアが活動する前に共有すること

複数のコーディネーターや学校支援ボランティアの方が関わる場合、いつ、どこで、誰が、何をするのか、役割分担を明確にしておきます。活動を円滑に行うためのチェックシートを作成して、全員で共有し、活動に備えます。

十人十色の子育てと読育
「親の参りしるべ」事前打合せ

2. スタッフ確認

・Mファシリテーター：_____
・家庭教育支援チーム：_____
・子育てサポーターリーダー：_____
・地域子育てサポーター：_____
・他 スタッフ _____ 計 _____ 名

3. 準備確認

・・・・チェック
・受付方法
・グループ分け方法 (関係者さまに相談)

・グループ表示
・名札：顔写・作成 (折り紙、両面テープ、シール、マジック、ピン、)
・表示物 みんなのルールなど ()
・配布物 要領ワーク (有・無) ()
当日 グループ配布用紙、参加者用ワークシート、渡り資料、ふせん、グループワークシート ()
その他 ()
印刷 用紙 _____ セット 封入袋 _____ だけだ
アンワーク、筆記用具、()
メッセージカード 作成・作成 _____

・必須アイテム 絵本、紙芝居、CD _____
アイスクレイク グッズ _____
グループ分け グッズ _____
その他 家庭支援チームピプス、スタッフタム、折り紙折り方発本など

名札、冷感用紙、筆記用具持参 (できればサインペン) ・筆圧対策、園児ペン)
配布するものは、予備を十分に準備しておくこと。不足のないようにしましょう！

・2

「親のみちしるべ」事前打合せ

※ 資料提供：大崎市協働活動コーディネーター・家庭教育支援チーム

先生に連絡するには、 いつ、どうしたらいい？

コーディネーターになった人の多くが
最初に抱く疑問の一つです。
まずは先生の動きを把握しましょう。



毎日忙しい先生でも連絡が取りやすい
時間帯や方法があります。
まずは、担当の先生に聞くところから。



時間帯	ある小学校の先生の動き
7:00 ~ 8:00	出勤 授業準備や事務処理など
8:00 ~ 8:15	子供たちの登校の様子を確認
8:15 ~ 8:30	職員室での打合せ 1日の予定の確認、教材準備など
8:30 ~ 8:45	朝の会 出欠の確認、健康観察、子供への連絡など
8:45 ~ 9:30	1時間目
9:30 ~ 9:35	教室移動がある時は大急ぎで準備！
9:35 ~ 10:20	2時間目
10:20 ~ 10:40	中休み（業間タイム） 子供たちの見守りや様々な活動など
10:40 ~ 11:25	3時間目
11:25 ~ 11:30	トイレタイム
11:30 ~ 12:15	4時間目
12:15 ~ 13:00	給食 配膳や食事の指導
13:00 ~ 13:20	昼休み 子供たちの見守り、午後の授業の準備、宿題チェック、お便り作成など
13:20 ~ 13:40	清掃指導
13:40 ~ 14:25	5時間目
14:25 ~ 14:30	トイレタイム
14:30 ~ 15:15	6時間目
15:15 ~ 15:30	帰りの会
15:30 ~	職員会議、校内研修、教材研究、授業の準備、学級だより作成、保護者への連絡、成績処理、テストのまるつけ、教室の環境整備、作品へのコメントつけ、校務分掌の仕事、諸帳簿の整理、地域の人への連絡など



先輩
コーディネーター
からのアドバイス

- 日中、教頭先生や事務の方が電話対応されることが多いです。まずは、教頭先生に要件と、どの先生と連絡が取りたいか、お伝えしておく、その後の打合せもスムーズでした。
- 事前に、担当の先生（地域連携担当）に、電話に出られる時間帯を聞いておくといいですよ。『〇〇先生にご連絡をするには、何曜日の何時頃だといいますか？』とお聞きすると、具体的に教えてもらえました。
- 16時以降、職員室に一度戻られる先生も多いので、連絡するにはいいタイミングです。中学校は部活動もあるのもう少し遅い時間帯がいいようです。
- 連絡事項だけなら、要点をまとめてFAXをするのも情報共有によいですね。
- 中学校は教科ごとの担当なので、時間割によっては日中でも職員室で連絡がとれることもありますよ。時間割をもらっておいて担当している先生の空き時間を把握しておくといいですね。

連絡のポイント

連絡方法は、FAXと電話で！

小・中学校の先生方は個人用のメールアドレスを持ってもチェックする時間もないほど忙しいです。
FAXや電話でのやり取りを基本とし、確認を取りながら学校代表アドレスや先生個人への連絡を行いましょう。約束事は、文書で残しておくとういでしょう。

中学校の授業時間は50分です。
中学校の先生は、進路指導、保護者との連絡、部活動指導などがあり、かなり遅くなることも！

新年度,スタートが大切! コーディネーターとして 何をすればいい?

毎年,必ずあるのが先生の異動です。

年間で活動しやすくするために

知っておくといいことをご紹介します。

「私がコーディネーターです」と ご挨拶する場面をつくってもら

新しい先生にも誰がコーディネーターをしているか、校内できちんと紹介してもらうと、顔が見える関係が構築しやすくなります。

4 月末にある PTA 総会でも、保護者向けにコーディネーターや地域学校協働活動の紹介をすると理解が深まります。



先輩
コーディネーター
からのアドバイス

- まずは、笑顔で挨拶!
- 担当の先生が変わった時には「去年はこんな活動もしていました」と一覧でお渡ししています。押し付けにならないように、必要な時にお声掛けくださいと言えます。
- 担当の先生だけでなく、教頭先生や教務主任、学年主任の先生等にもお話するように心掛けています。校内でいろんな先生と話しやすくなると活動もスムーズです。
- 先生からのお願いごとに「無理」と思っても、すぐ断らないようにしています。統括コーディネーターや教育委員会などに相談してみましょう。

年度始めに学校からいただきたいもの 知っておきたいこととは?



学校要覧

毎年,学校ごとに4月~5月頃を目安に作成します。学校教育目標や児童・生徒数,クラス編成,教職員,行事予定等,その学校の基本情報が記載されています。一度は目を通すことをおすすめします。

年間行事予定表

年度末には,新年度の年間行事予定が確定します。年間行事予定一覧表をいただくと,コーディネーターとして動く時に役立ちます。

平成30年度 ●●●学校 年間行事予定表(例)

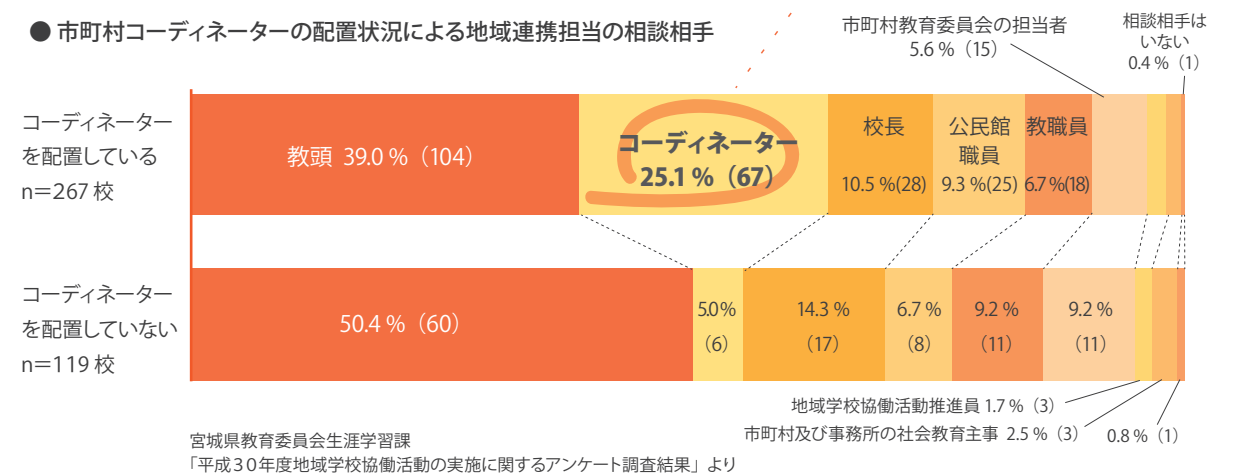
日	4 月	5 月	6 月	日
1	日	火 校外学習(●年)	金	1
2	月 新任式・着任式	水	土	2
3	火	木 憲法記念日	日	3
4	水 職員会議	金 みどりの日	月 避難訓練	4
5	木 教科会・学年会	土 こどもの日	火 職員会議	5
6	金	日	水	6
7	土	月	木	7
8	日	火 職員会議	金	8
9	月 始業式・入学式	水	土	9
10	火 PTA役員会	木	日	10
11	水 給食開始	金	月	11
12	木	土	火	12
13				13

校務分掌

校務分掌(こうむぶんしょう)とは,分かりやすく言えば先生方が学校内で担う「役割」のことです。先生方は,学級担任や担当教科,部活動を受け持つだけでなく,校内では様々な役割を持っています。主な校務分掌は,教務主任,研究主任など各種主任,総合的な学習の時間,防災,生徒指導,進路指導,特別教育支援教育,給食指導,図書,情報教育,清掃指導,保健指導等があります。一人で複数の校務分掌を担うことも。校務分掌は,教育委員会や学校ごとで必要に応じて名称や内容も異なりますが,「地域連携担当」は,宮城県内全ての小・中学校に配置されています。コーディネーターにとって,教頭先生だけでなく地域連携担当の先生と話す機会を増やしていきましょう。

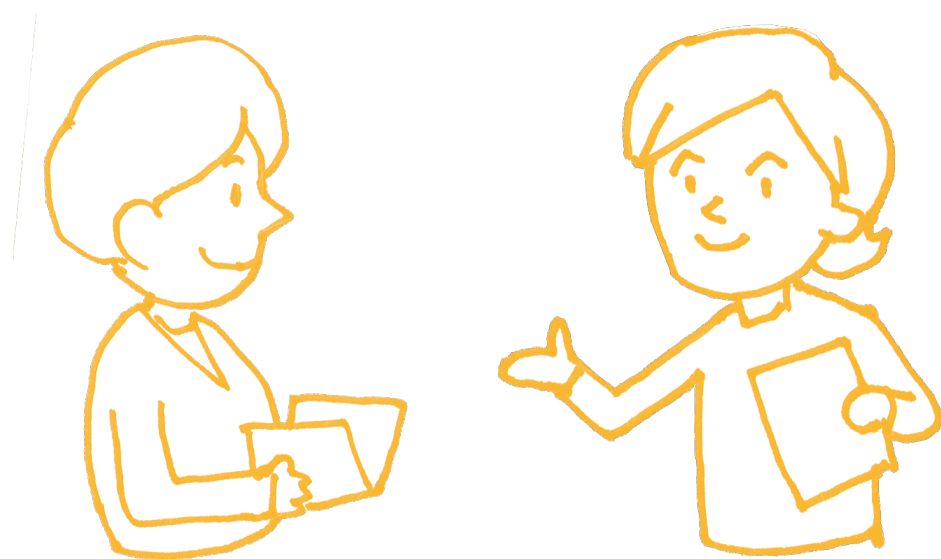
● 地域連携担当の先生の相談相手はコーディネーター

以下のデータを見ると,コーディネーターがいる市町村教育委員会や学校では,頼りにされているのが分かります。



地域コーディネーターに 役立つスキルって 何だろう？

ここで言うスキルとは、コーディネートする上で
知っておきたいちょっとした「コツ」を言います。



守秘義務を伝える力

「守ってほしいこと」を口頭や資料などで伝えます。ボランティアの心得として提示することもあります。

- コーディネーターからボランティアへ伝える大切なこと
 - ・相手に苦痛を与える暴言や体罰は絶対にしない!
 - ・個人情報や、活動の中で知り得た子の秘密は、たとえ家族や仲の良い友人であっても絶対に外部に漏らさない!
 - ・先生に対する批判や批評を子供の前では絶対に言わない!
 - ・思想的に中立の立場で!営利目的の活動はしない!

(参考資料: 仙台市教育委員会発行 学校支援の手引き)

- ボランティアが活動するために心掛けること
 - ・子供たちのために、社会のために活動するという気持ちを大切にしましょう!
 - ・子供に分かる優しい言葉で話しましょう!
 - ・子供の様子を見て、公平・公正な態度で接しましょう!
 - ・子供をほめてあげましょう!そして共に学びましょう!
 - ・決められた時間を守りましょう!

(参考資料: 一般社団法人とちぎ市民協働研究会 地域と学校がつながるために)

ただ「つなぐ」だけじゃない。
より活動を充実させるための
コーディネートスキルとは？

先輩コーディネーターに聞いてみました。
『知る』と『できる』は違います。まずは、意識してやってみましょう!

① 聴く力

コミュニケーションの基本は聴くこと。相手の話を「聴いているよ」とサインを出すことが大切です。

- ポイント
 - ・相手の話を最後まで聴く。
 - ・相手の話を否定しない。
(一度は受け止める)
 - ・分からない時は、素直に質問する。

やってみよう!

- ・相手の目を見る
- ・うなずきながら聴く
- ・相づちを打つ
- ・相手の言葉を繰り返す
- ・メモを取る

② 伝える力

相手の立場になって、相手に分かりやすく話すこと。相手を嫌な気持ちにさせないことが大切です。

- ポイント
 - ・自分の思いを一方向的に話さない。
 - ・専門用語やカタカナ語に気をつける。
 - ・場合によっては、文字で伝える。
(メール、メモ等)
 - ・「大丈夫でしたか?」「何か分からなかったことありますか?」等の一言を添えて相手に伝わったことを確認。

やってみよう!

- ・相手の目を見る
- ・声のトーン、話すスピード、言葉遣いに気を付ける
(上から目線はNG)
- ・ポイントを絞って伝える

③ 発信する力

どこに(誰に)、どんな情報を、どうやって発信するかを明確にすること。発信ツールは様々です。

- ポイント
 - ・事前に学校やボランティアの取材、撮影、掲載許可をもらう。
 - ・ボランティアへの撮影、記録のルールを説明する。
(特に撮影NGの児童・生徒の確認、個人が特定されないような配慮が必要)

主な情報発信ツール

- ・〇〇通信, 〇〇便り
- ・HP, Blog
- ・SNS (facebook, Instagram等)
- ・マスコミ (TV, 新聞等)
- ・地域広報誌 等

上記のスキルを支えるベースは・・・

準備する力

事前の「段取り八分」です。
活動当日に向けて、「モノの準備」、「心の準備」をすると「コトの準備」につながります。

心の余裕ができると・・・



笑顔で活動できます!
先輩コーディネーター誰もが
活動中は笑顔が大切と答えています

協力してくれる ボランティアを どうやって探す？

学校からの要望等を聞き、誰に声掛けするか。ボランティア探しは、コーディネーターの腕の見せ所です。コーディネーター次第で、活動の質が変わります。

地域のキーパーソンに相談する

この人とつながると情報が得られる、協力者を集めてくれる、活動を支援してくれる等、まずは地域のキーパーソンを見つけましょう。所属団体の役員や事務局を担う中心的な役割の方が多いです。先生の「子供たちのために、こんな活動がしたい」という思いを実現するために、要望にあったボランティアを探します。まずは、コーディネーターが信頼できる方へ声掛けしてみましょう。



地域の方への挨拶で緩やかなネットワークづくり

子供たちのより豊かな学びとなる活動のために、コーディネーターが自ら地域へ足を運び、挨拶をして顔が見える関係づくりを心がけることが大切です。「ご挨拶3点セット」を用意すると便利です。



どんな方がボランティアをしているの？

ボランティアは特別な資格がなくても大丈夫！

「私は〇〇ができます」「自分が得意な〇〇について、子供たちに教えたい」ということも大事ですが…「子供たちが健やかに育ってほしい」「子供たちのために何かできたら…」という気持ちのある方なら活動できます。

専門的なことなら外部講師（ゲストティーチャー）として、誰でもできる活動なら日常的な活動をサポートするボランティアとして。学校や地域の要望にもよりますが、ボランティアの活動内容は様々です。

コーディネーターは地域住民等の思いを汲み取って、登録したボランティアが活躍する場面をつくることも大切です。

ボランティアをしている人は…こんな思いを持っています。



PTAとの関係

地域学校協働活動では、PTAと情報交換等を密にして良好な関係づくりを心掛けましょう。

PTA役員経験者がコーディネーターやボランティアをされている方も多いです。自分の子供が卒業しても、学校の教育活動に関わる良さもあります。また、地域学校協働活動として行方際、場合によっては、PTA予算から資金を捻出してもらうこともあります。

ボランティアが 気持ちよく活動するために どんな準備が必要？

初めてボランティアをするときは

大人でも緊張します。

子供たちのために

ボランティアが活動しやすいよう

準備を進めましょう。



ボランティアとの関わりは 当日だけでなく、事前・事後も大事！

コーディネーターとして行う
業務の流れを紹介します。
事前の打合せや、事後の振り返りを
しっかり行うと次につながります。

事前

■ 打合せでは…

- ・授業や活動のねらい、目標を共有する。
- ・子供たちの情報を共有する。
(クラスの様子、配慮が必要な子供のこと等)
- ・当日の交通手段、到着時刻、準備物、留意点などを確認する。
- ・ボランティアの当日の連絡先を聞いておく。
- 当日、直前に変更が生じた！ボランティアと連絡が取れなくて困った、ということも。
- ・ボランティアに撮影（写真やビデオ）していいか許可を取る。
- ・ボランティアが撮影した写真等を SNS や WEB にアップする際は事前に学校の許可を取るなど注意を伝える。
- ・活動中に知り得た情報について、**守秘義務**があることを伝える。(場合によっては、誓約書を記入してもらうことも)

■ 打合せ後、前日までに…

- ・撮影不可の子供がいるか、先生に確認する。
- ・ボランティア保険に加入手続きをする。
(学校を経由して加入することが可能。詳しくは教頭先生へ)
- ボランティアが活動中ケガをした場合、治療費の相談等トラブルにならないようにするために保険加入は必須です。
- ・ボランティアの名札を作成する。
- ・必要な書類を作成し (例えば、P10 学校支援ボランティア連絡シート等)、校内の関係者で共有する。
- ・授業や活動で使う物を準備する。
- ・情報発信の手段としてマスコミに取材依頼をすることも効果的。

重要

当日

■ 活動前に…

- ・ボランティアがそろったら、全員で最終の打合せを行う。
- ・可能であれば校長先生に紹介する。
- ・担当の先生と直前の打合せを行う。
- ・何よりも「**子供たちのための活動である**」ことを伝える。
- 子供たちのやる学習なのに、ボランティアが張り切って全部自分でやってしまうことがないように目標やねらいを共有しておくことは大切です。
- ・当日の見学者や取材が入る際も伝える。
- ・**撮影や守秘義務について改めて確認**をする。

事後

■ 活動直後に…

- ・何よりも、感謝の気持ちを伝える。
- ・(活動によっては) ふりかえりシートや感想を書いてもらう。
- ・良かった点や改善点はしっかりと伝える。
- 「もっとこうすると子供たちの反応が良くなりますよ」などのアドバイスも。子供たちの学びと成長のためでもあり、活動の質も向上します。
- ・ボランティアからの意見や気づきもしっかりと聞き、先生方と共有する。

■ 活動日以降…

- ・子供たちの感想やお礼状をまとめ、渡す (送る)。
- ・通信等を作成し、活動を紹介する。

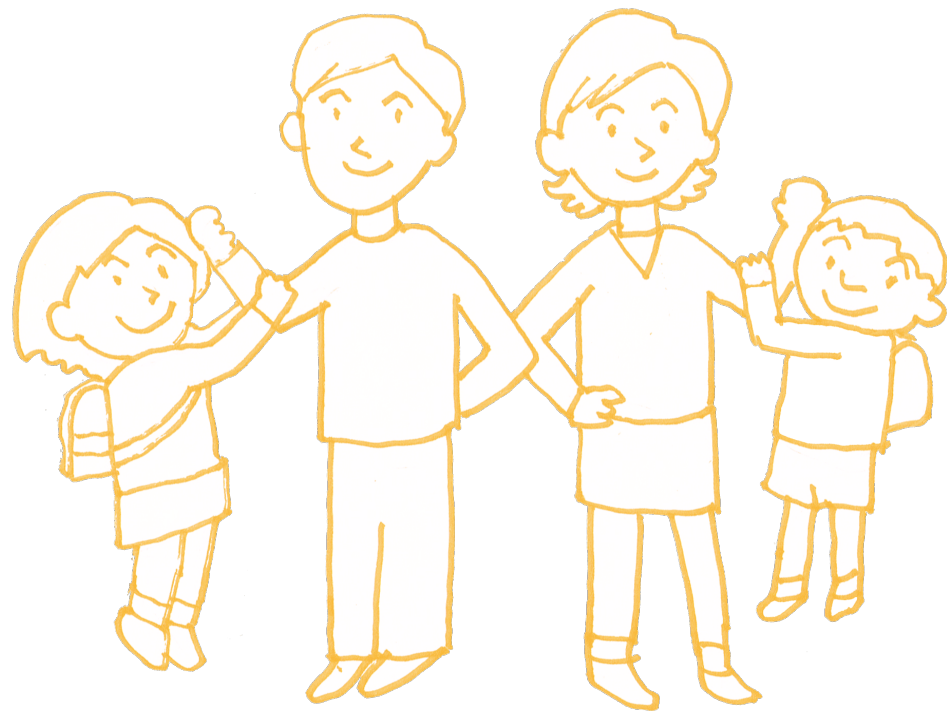
もっとボランティアが活躍するには？

子供たちのためにと、ボランティア登録したものの

いつも決まった方ばかりが活躍している・・・

登録したボランティアの活躍の場は

登録内容だけではありません！



ボランティアの 活躍の場を広げるために

人材バンクリストを作って、満足していませんか？
ボランティアの考え方を考えてみましょう。

ボランティアをする方の思いを活かそう

よくあるのがボランティアの「人材バンクの登録リスト」。コーディネートをする人にとって、貴重な情報です。しかし、ボランティア側からすると、せっかくボランティア登録したのに、「全く声がかからない」という不満の声が聞こえてくることもよくあります。

そもそも人材バンクは、おおむね外部講師（ゲストティーチャー）として活動できる特技や専門的知識等を持った地域の協力者です。この特技や専門的知識等は、学校の教育活動内容と合致するとは限りません。協力しようとしてボランティア登録してくれる方は、子供たちのために何かしたい、役立ちたいと思っている人ばかりです。大切なのは、この方々の思いを受け止めること。

ボランティアが活動するニーズの考え方も、下記のように2つに分けるとコーディネートしやすくなります。

学校ニーズの考え方

専門的知識や技術が
必要なゲストティーチャー
による授業や活動

地域住民等による
専門性を問わずにできる
サポート活動

学習内容によっては
これまでも
ゲストティーチャーは
学校で調整
できていました。

子供たちの
学習環境を整えるため
日常的な授業や活動への
サポートに対する
学校ニーズは高いです。

※資料提供：NPO 法人まなびのたねネットワーク

【例】小学校での書道ボランティア

ゲストティーチャー：書道を教えられる人（人材バンクの登録内容）

サポーター：書道の準備・片付け等のお手伝いができる人（登録ボランティアに声掛け可能）

地域から学校への要望 「こんなことしたい」と 言われたら？

地域の方やボランティアからの提案や要望。
嬉しいけれど、時には学校と地域の間に入って
困ってしまうことも…。
どうすればいいのでしょうか。



地域からの提案を

子供たちの豊かな学びにつなげるために

学校の教育活動には約束事があります。
どの授業や活動でも学習課題や時間が決まっていることを
覚えておきましょう。

学校の教育活動を理解する

「子供たちのために〇〇をさせてください!」「子供たちにはこんな学びが必要です!」子供たちへの思いが熱いほど、様々な提案や要望が出されてきます。コーディネーターとしてはとてもありがたいことではありますが…ちょっと待ってください。

学校の教育活動は、国（文部科学省）が定めた学習指導要領にのっとって学習内容や学習時間が決められています。先生は、年間でのカリキュラムを考えて、授業や学校行事を組み立てています。

そのため、突然新しいことを「やりましょう!」と言われても、調整することが非常に難しいのが現状です。コーディネーターとして、学校の実情を理解することはとても大切なことです。

それは誰のためのもの？

では協力者から提案を受けた時はどうすればいいのでしょうか。まずは感謝の気持ちを伝えることは言うまでもありません。そしてその提案が、対象となる子供たちにとって適したものかどうかを訊いていく必要があります。その提案内容が何のために行われるのか、それを行うことによって、子供たちにどんな学習効果が得られるのか等を、しっかりと聞く必要があります。コーディネーターとして可能な限りの事前情報を把握し、学校に伝えることで、学校が実施可否の判断がしやすくなります。

それが、子供たちの豊かな学びの機会を創る一歩となります。

実現させるためには

コーディネーターが学校の教育活動をしっかりと理解することで、提案を実現につなげていくことができます。コーディネーターが学習指導要領を把握しているのであれば、「〇年生の●●の授業ではどうでしょうか」と具体的な提案をし、判断を仰ぐことが出来ます。もしくは、先生の方から「こんな内容にしてもらえれば〇年生の●●に組み込めるかも」というような提案があるかもしれません。それには、コーディネーターとしての経験も必要になりますが、それができると活動の幅もさらに広がります。

提案時期としては、学校の新年度計画ができ上がる12月前がよいでしょう。

コーディネーターは双方の思いをつなぐ「通訳者」になることが大切です。

仙台市 小1生活・学習サポーター

取材協力：仙台市立東六番丁小学校

スーパーバイザー
(地域コーディネーター)

鹿野さんに
小1生活・学習サポーター
について聞きました

この活動のねらいは、何かと不安がある新入学児童が安心して学校での集団生活を過ごし、落ち着いて学習に取り組める環境をつくることにあります。そのために担任の先生の指導をサポートするのが役割です。入学式翌日から夏休み前まで各クラスに毎日1名ずつ入り、朝の会から帰りの会まで子供たちを見守ります。給食は仙台市から提供され、教室で同じものを一緒に食べて、子供たちと会話をしながら気を配ります。エプロン姿が目印で、通称『おかあさん先生』と呼ばれ、その名の通り、時にはお母さんの目線で細やかに優しく接しています。長く続いている活動で、保護者や地域の方が登録し毎年行っています。

Q コーディネーターとして 気を付けていることは？

先生の考えを尊重しつつ、サポーターの声にも耳を傾けて双方のバランスを常に心掛けます。それと、子供たちの学校生活そのものを見守るので、活動で見聞きたことでの守秘義務の重要性は、必ず伝えています。私なりのこだわりは、サポーターのシフトを考える時、なるべく知らない子供と大人が出会うように工夫していることです。この活動を通して“年齢を問わず、新しい出会いが広がって欲しい”という願いからです。



仙台市立東六番丁小学校 学校支援地域本部
スーパーバイザー 鹿野恵美子さん

※仙台市教育委員会では平成20年度より学校支援地域本部を設置し、中心となるコーディネーターをスーパーバイザーと名付けています。

新入生の学習や生活を見守る

小1生活・学習サポーター、通称「おかあさん先生」。

授業以外にも着替え、給食、トイレなど

まだまだ不安な1年生に、温かく寄り添います。

※小1生活・学習サポーターは仙台市独自の制度で、保護者や地域住民によるボランティアです。

「お便り」で 募集の 呼び掛けを



4月当初、まずは「東六小支援本部だより」を作成して、子供たちを通して各家庭に配布。小1生活・学習サポーター（以下サポーター）のボランティア募集をします。

担任の先生、おかあさん先生 とのパイプ役

1年生のクラス担任になった先生とコーディネーターとで、年度初めに簡単な打合せをし、そこで出た要望をサポーターに伝えています。現在は経験豊かなサポーターが多く、活動内容や子供たちとの関わり方も理解しています。初めての人には、先輩サポーターと一緒に活動してもらいます。大事なものは、学校は先生と子供たちのものであることを忘れないこと。また、見守り方や声掛けの言葉遣い、守秘義務等の注意点はきちんと伝えます。



後ろから手が伸びて「ねえ、おかあさん先生」

■ 小1生活・学習サポーターの募集から活動まで

3月

- お便りや声掛けで募集
- サポーター申込み受付
- 内容説明のため、学校に来てもらう
活動のねらいや守秘義務等、活動する上で大切なことをしっかり伝えます。

春休み

- 1年生担任の先生とコーディネーターとの打合せ
- サポーター登録可能なメンバーの把握
- 名札やロッカー等、受入れの準備
- シフト作成
毎回、一週間前にはシフトを作り、メールなどで連絡。

校長先生から一言 ～ 地域全体で子供を育む～

小1生活・学習サポーター“おかあさん先生”と過ごした子供は、学年が上がっても落ち着いています。

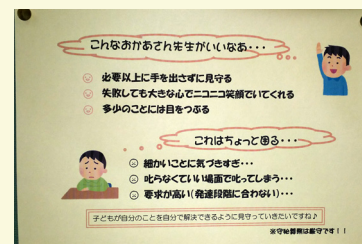
それは見守られた安心感があるから。卒業後、思春期になって街角で「あら、どうしたの？」と小1の自分を知る人に声を掛けられると中高生でもやっぱり無視はできない(笑)。見守られている実感が続きます。“地域全体で子供を育む”ことが、今の子供たちには必要なのだと思います。



仙台市立東六番丁小学校
小野 順 校長先生
(平成30年3月当時)

工夫が いっぱい

活動時の心構え、守秘義務について掲示してあります。



おそろいのエプロン姿は、子供や先生が一目でおかあさん先生だと分かります。サポーターも、自分のものが用意であると居場所があるようでうれしいとのこと。



クラスごとにノートに分けておくと先生も読みやすく、サポーターも書きやすくなります。



一週間のシフトが一目でわかるホワイトボード。



名札は、活動する上で大切です。

先生との連絡や、シフト調整 もコーディネーターの仕事

あらかじめ、先生にどの授業でどんなサポートが必要か伺います。例えば「今回は算数でおはじきを使うからフォローしてほしい」等です。なるべく各クラスに一人が入れるように一週間前にシフトを調整します。



当日はサポーターが 動きやすいようにサポート

サポーターは登校したらエプロンと名札を着けます。これで子供たちや先生から見て誰がおかあさん先生か分かります。

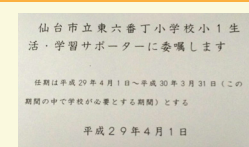
コーディネーターと打合せをし、情報交換ノートで前回からの引継ぎ内容、先生からのコメントを確認してもらいます。また、前の授業が体育なので、着替えの見守りが必要とか、遠足の前だから何だかはしゃいでるなど、活動前に情報共有します。活動が始まれば、基本はお任せです。コーディネーターは各クラスの様子を邪魔にならないよう見守ったり、記録写真を撮ります。

終わった後が大事なひととき

活動が終了したら、クラスの情報交換ノートに書き込みます。もともとはおかあさん先生とコーディネーターとの間で情報共有するノートでしたが、いつしか先生もコメントするように。今は交換日記のようです。これがあるとそのクラスで見守っているサポーター全員が情報共有できます。コーディネーターはサポーターが感じる「あれは?」「どうしたらいい?」をキャッチして、後の活動に活かします。



5月



仙台市教育委員会から委嘱状が発行され、校長先生からサポーターに手渡されます。

夏休み以降

担任の先生に、いつ、どの教科に何人必要か、その都度確認しながらサポーターを調整します。

登米市の キャリア セミナー

取材協力：登米市立津山中学校

一人で活動することが多い地域コーディネーター。

ここ登米市では、市内全ての中学校（10校）でキャリア教育プログラム「キャリアセミナー」を行うため、統括コーディネーター（登米市教育委員会生涯学習課所属社会教育指導員）が、全体調整役となり、全地区（地域）コーディネーターが自分の担当地区の枠を超えてチームで実施しています。

※登米市は広域合併する前の旧9町に一人ずつ地区コーディネーターを配置。

● 津山中におけるキャリアセミナーの目的 ※学校ごとに目的を決めます。

1. 多くの職種の方々との出会いや話し合いを通じて、生徒一人一人に自らの生き方を考えさせ、将来に対する目的意識を持ち、主体的に自己の進路を選択決定しようとする意欲や態度を育成する。
2. 自分自身を見つめ、自分と社会との関わりについて考えさせ、社会生活で自己実現していこうとする態度を培う。

事前準備 コーディネーターの動き

年度始め

説明会開催

各中学校の担当の先生と全コーディネーターが集まり、キャリアセミナー説明会を行い、当日までの動きを確認します。
（実施日については、前年度末に学校教育課で各校と調整します。）

初回打合せ

統括コーディネーターと担当地区のコーディネーターが学校に行き、管理職や担当の先生方と打合せをします。生徒からの「希望職種リスト」を基に、講師選択や講話内容の要望等を聞き、講師人数と職種を決定します。講師の調整はコーディネーターだけでなく、必要に応じて市教育委員会や学校の協力も得ます。



●ご自宅まで打ち合わせ中

初回打合せ後
1週間以内

キャリアセミナー コーディネーター部会開催

全コーディネーター（10名）で各校の打合せ内容を共有します。学校が希望する職種について話し合い、講師候補を決めます。講師との連絡・調整は、全コーディネーターで分担します。実施校の取りまとめは、その学校を担当する地区コーディネーターが行います。



●コーディネーター部会は大切な情報共有の場

部会
終了後

講師依頼

各講師担当のコーディネーターが依頼状を渡します。

実施
1ヶ月前

講師と事前打合せ

各講師担当のコーディネーターは、生徒からの質問状を渡し、受講する生徒の人数を伝え、準備物等を確認します。

実施
2～3週間前

最終打合せ

統括コーディネーターと学校担当の地区コーディネーターが学校へ行き、先生方と最終打合せを行います。この段階で、当日の流れや全コーディネーターの細かい動き、準備物等の確認を行います。

キャリアセミナーをブラッシュアップにするために！

- ・「子供たち」を主語にした目的づくりを！
- ・主体的・対話的で深い学びにつながるよう事前学習・事後学習・当日の方法論を考え、工夫しましょう！

開催当日 コーディネーターの動き

1講座は50分。
生徒は講師15名の中から
2講座を選びます。
少人数なので講師と生徒の
距離が近いのが魅力です。

1

講師受付け

講師の手荷物を受け取り、各教室に案内します。



2

会場準備

講師が使用する機材の動作確認をします。



3

中間ミーティング

記録や講座後の片付け担当を決めます。



4

統括コーディネーター

全体運営を考えながら全講座を見て回り、先生方とコミュニケーションを取ります。



5

後片付け

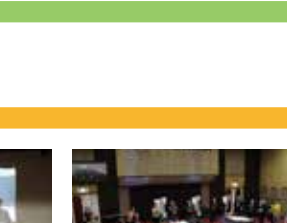
生徒たちも手伝いながら素早く片付けます。講師の小物や資料は大事に管理します。



6

意見交換会

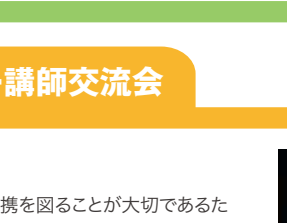
講座終了後に講師や先生が感想や意見を出し合います。



7

統括コーディネーター

さりげなく講師のフォローに入り、必要な情報を伝えます。



9

チーム登米市 コーディネーター

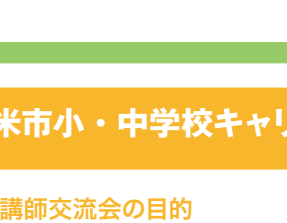
次の学校も頑張ろう！



8

最終ミーティング

講師を見送った後、コーディネーター全員で気づきや改善点などを共有します。



登米市小・中学校キャリアセミナー講師交流会

● 講師交流会の目的

地域全体で教育機能を高めるためには、各機関での相互連携を図ることが大切であるため、講師同士の情報共有の場を設け連携を強化する。また、これまで積み重ねてきたキャリアセミナーを、さらにステップアップさせる機会とする。

● 実は、こんなことにつながってます！

- ・講師交流会をきっかけに講師同士が自発的に集まって、登米市の未来や子供たちのことを考え積極的な情報交換を行っています。
- ・キャリアセミナーをきっかけに講師の事業所で職場体験の受け入れを行ったり、生徒が講師の経営するお店に足を運んだり、個々のつながりが生まれています。
- ・「キャリアセミナーがあるから」と登米市に定住を決めた講師がいます。



実際に行った講座のビデオ視聴中



アイスブレイクをして一体感を



ワールド・カフェで情報交換

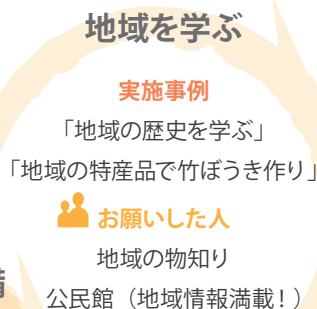


コーディネーター全員から感謝を込めて

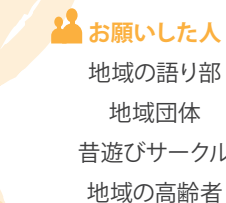
事例紹介3 たくさんのボランティアが活躍しています！

小学校低学年

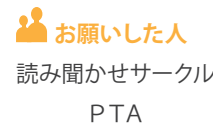
全学年共通



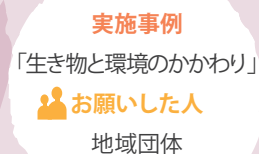
昔ばなし・昔あそび



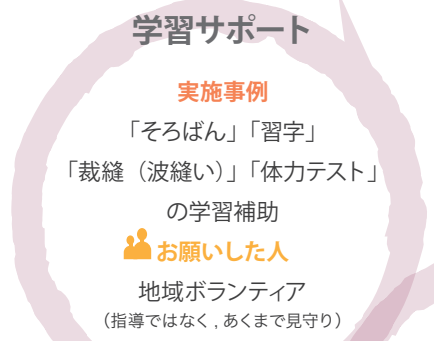
読み聞かせ



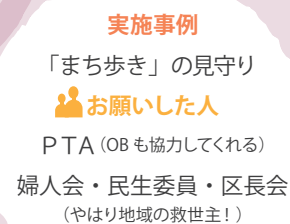
理科



小学校中学年



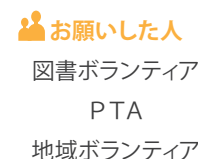
まち探検



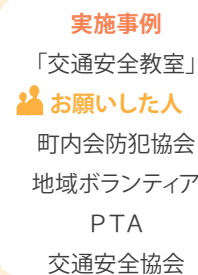
小学校高学年



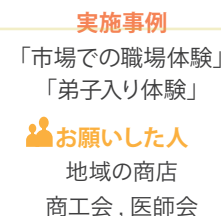
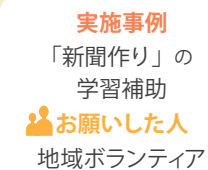
本の整理



安全パトロール



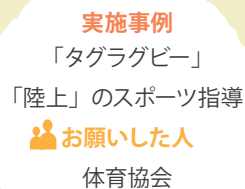
総合学習



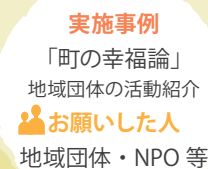
ミシン・裁縫



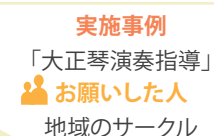
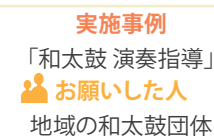
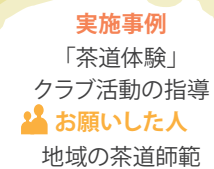
スポーツ



6年国語

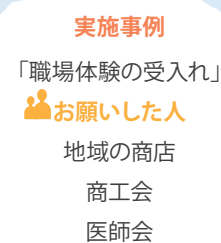


伝統文化

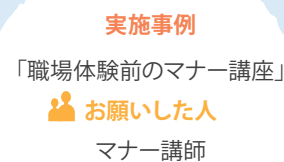


中学校

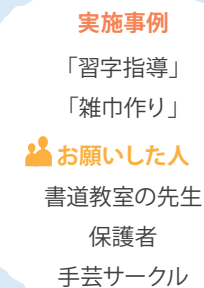
職場体験



職場マナー講座



学習サポート



伝統文化



コーディネーターの業務である連絡・調整って、具体的にどうするの？

経験豊富な地域コーディネーターの実践例を時系列でご紹介します。

子供たちの学びのためにボランティアが活動しやすいよう、どのくらい準備や心遣いができるかは、コーディネーターによって異なります。

事例紹介

4

全校遠足の見守り（徒歩）

情報提供：登米市教育委員会 米山地区協働教育コーディネーター

学校からの依頼内容

活動内容：全校たてわり遠足の見守り（学校行事の協力）

対 象：第1～6学年児童155名

活動場所：学校→片道約5km 地点の山の交流広場→学校

その他要望等：○別紙の地図に示した6ヶ所の地点に立って見守りをしていただきたいと思います。全員で4名程度

○往路到着後一旦解散し、往路出発前に再度集合していただきたいと思います。

※登米市教育委員会では、学校から提出された「ボランティア派遣依頼書」（市様式）を元に、ボランティア調整を行っています。

事前

- 学校から電話で依頼を受け、日時や遠足へ行く場所の確認をする。
- ボランティア5人に電話で都合を聞く。
- 学校から行程図をもらい、学校から目的地までのルートと見守りをする場所の確認をする。
- 子供たちの歩く道や、ボランティアの見守る場所に直接出向いて、危険箇所等がないかを確認する。
- 出発時間と到着時間から逆算し、見守る時間を明確化する。
- ボランティアへの依頼状を作成し、ルートと見守る場所の地図を発送する。

当日

- コーディネーターは、緊急事態にも迅速に対応できるよう車で行動する。
- ボランティアには、早目に集合をかけ学校の先生と顔を合わせ、見守る箇所を決定する。
- 子供たちが目的地に到着後、帰路の見守り時間を伝えてから一旦解散し、再集合する。
- 活動終了後にボランティアに電話し、子供たちの様子や活動への感想を伺う。

事後

- 学校へ、ボランティア目線での気づきや、コーディネーター目線で気づいたことなどを直接伝え、次の改善点等を連絡する。
- 学校からのお礼状や子供たちの感想文、活動写真をボランティアに届ける。
- 活動記録を作成し、教育委員会に提出する。



事例紹介

5

書写サポーター

※東六番丁小ではボランティアをサポーターと呼んでいます

情報提供：仙台市立東六番丁小学校 学校支援地域本部 スーパーバイザー

学校からの依頼の手順

書写担当教諭が用紙を作成し、いつ、どこのクラスに書写サポートが必要か

各担任に記入してもらう。書写サポート希望一覧の用紙をコーディネーターが受け取る。

サポーター募集や調整のポイント

- サポーターなので、子供のときに習字を習っていた人などをメインに募集する。
- 毛筆が始まる3年生の最初の授業に入れてもらえると、道具のセッティングや使い方のルール、学習の仕方を共通理解できるので良い。（あくまで担任又は教科書の指導法に沿う）
- 冬の書き初め練習の場合は、サポーターが先生方の校内書き初め講習会に参加したり、全学年のお手本（解説付き）を用意してもらい、共通認識を図る。



事前

- 書写サポートができる人の把握をする。春にチラシでサポーター募集を呼び 掛ける。
- 書写担当の先生に「必要であれば声を掛けてください」とさりげなく伝えておく。
- 声が掛かったら次のことを行う。
 - ・何をして欲しいかを確認する。
 - ・学年やクラスに入って欲しい書写の日時をリストアップしてもらう。
 - ・リストを元にサポーターに連絡をし、活動の可否を確認する。
 - ・入れる時間と人数の調整と割り振りをし、サポーターと先生に伝える。
 - ・必要であればお手本などを用意する。

当日

- コーディネーターから担任へサポーターの紹介をし、支援室（サポーターやコーディネーターが活用する教室）にて直前の打合せをする。サポート内容や学習内容を説明する。
- 休み時間のうちに活動場所（教室や特別教室など）へ移動する（可能な限りコーディネーターも一緒に入る）。授業開始時に担任から子供たちにサポーターとサポート内容を紹介する。
- コーディネーターはわずかな時間でも授業に入り、サポーターの活動状況や子供たちの様子を見たり、写真を撮る。
- サポーターだけでなく、コーディネーターも必要に応じて道具や墨などの片付けを手伝う。
- 活動後、サポーターと振り返りを行う（担任が入る場合もある）。お礼を伝える。

事後

- 書き初め展覧会などに出席する練習会がある場合には、同じサポーターに声掛けをしてサポートに入ってもらう。出席結果をサポーターに知らせる。
- 「支援本部だより」（不定期に発行している活動を伝える通信）を作成し、活動の紹介をする。

事例紹介
6

衣装づくりボランティア

情報提供：大崎市協働活動コーディネーター

協力：大崎市立古川第五小学校



ボランティアを
依頼するまでの
背景

きっかけは、先生のつぶやき声を聞くことから

「前例のないことだし、こんなことボランティアさんに頼んでもいいのかなら？・・・

小学校生活最後の学芸会で創作劇（全員ねこの劇）をしたい！

子供たちも、観客も、みんなが感動する劇をつくりたい！」



先生

前例がないのだけど、ボランティアさんに
お願いしていいのかなあ？

児童数が多いので、Aという1役も、場面で演者を替えなければならない。
その時に同じ役が同じような衣装でなければ、劇の内容が分かりづらくなる・・・。
各家庭で衣装を作ったらぎっと柄がバラバラになるし、作れない家庭もあるし・・・。
学校はこの他にもいろんな準備など、作業がいっぱいあって・・・。

（前例がないからとか、頼んでいいかわからないと遠慮する先生もいる。
時間が足りないから、先生のパワー不足ということはない。修学旅行が終わってすぐ
の学芸会は大変。）

全員参加の創作劇！脚本づくりをしてきている先生の思いやご
苦労がよく分かります。

先生のアツイ思い『子供たちのために』の願いを叶えましょう！
制作が大変な長老猫18匹、紫猫3匹、柄を揃えて作ります！！

（一般猫や白猫などは子供たちがTシャツにペイント、クラスで準備する）



コーディネーター

学校からの依頼内容

小学校6年生 5クラス 165名の全員参加

創作劇の猫の衣装 計21着

先生のイメージ図に合わせて作成



※先生が描いたイメージ図

コーディネートの流れ

①学年の先生 ⇒ ② 地域連携担当の先生 ⇒ ③ コーディネーター ⇒ ④ ボランティア

事前

■ 事前検討会

学年の先生・地域連携担当の先生・
コーディネーターが目的・内容・スケ
ジュール等を話し合う。

■ ボランティアを集める

保護者ボランティアと地域ボランティ
アに直接声掛けをする。

■ ボランティア事前説明会・内容検討会

作業が数日間に及ぶため説明会を開催
する。連絡調整を行う。

活動期間（計6日間）

■ 先生とボランティアの合同打合せを行う

○スケジュール&納期確認 ○作業内容確認（作成する衣装、枚数） ○作り方や手順などを検討

■ 衣装を試作する

制作ポイント：予算内でできるもの、作りやすいもの（作業効率）、演技しやすい動きやすいもの（軽量）、壊れないものなど（強度・縫製の方法）。

材料検討：いろいろな素材を余り生地に縫い付けてみる。コーディネーターも、試作づくりから参加し、一緒に活動した。

■ 材料を準備する

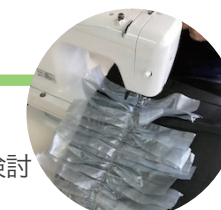
保護者、先生方、地域に生地や服などの提供を呼びかける。
生地だけにすると重くて動けないことが判明、軽量化、作業効率を高めるためにすずらん
テープを漉き込んで毛並を表現できるように工夫をする。

■ 衣装を作る

作業3日目に1着目が完成。6日間で延べ26人のボランティアの協力を得て約束の
衣装21着が完成する。

■ 完成した衣装を子供たちに手渡しする。

■ コーディネーターは、写真を撮ったり、進捗状況を確認したり、 ボランティアへの労いや感謝の声をかける。



制作準備



ボランティアの試着の様子

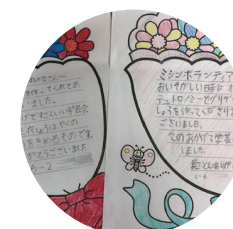
事後

■ 衣装づくりボランティアの人たちには児童公開日に鑑賞していただく。

■ 子供たちが書いたボランティアへのお礼の手紙を届ける。

■ 活動終了後は、「振り返り」を行う。

ボランティア、地域連携担当の先生と感想や気づき、改善点などを話し合い、次年度へ
つなげる。



子供たちが書いたお礼の手紙

コーディネーターってどう？ 現役コーディネーター座談会

県内で活躍中のコーディネーターが集まっての本音トーク。
ちょっとのぞいてみましょう。

コーディネーターならではの 楽しさ発見！

 **ようこそさん** (仮名)
コーディネーター歴10年。
市内の地域コーディネーターたちの統括
的立場。コーディネーターのよき相談役
として、チームの輪を大切にしている。

 **つよしさん** (仮名)
コーディネーター歴6年。
PTA会長経験からコーディネーター
に。仕事と家庭と地域をバランスよく楽
しんでいる。

 **ちづるさん** (仮名)
コーディネーター歴5年。
本の読み聞かせボランティアからコー
ディネーターに。最大の協力者は当時
のボランティアの仲間。

 **まさえさん** (仮名)
コーディネーター歴3年。
広い地域を担当し、西へ東へ車で走り
回るコーディネーター。これぞ地域の
おばちゃん力。

 **ちづるさん**
市外のコーディネーターと話す機
会があまりないから、今日はとても楽しみ
です♪早速だけど皆さんは、コーディネ
ーターをしていてどんなことが楽しいですか？

 **ようこそさん**
そうですねえ…普段接すること
のない人たちとたくさん出会えることか
なあ。90代のおばあちゃんとか10代の女
子高生とか。

 **まさえさん**
そうそう。私は、そんな人たちを
つないでいくのがとても楽しい！私のような
子育てを卒業した世代と現役世代をつない
で、子供たちの成長を一緒に見守り、みん
なで「良かったね」と喜べる瞬間がたまら
ない♪

 **つよしさん**
私は、子供たちと地域の大人をつなぐことで地域が変わってきている
と感じてらるんですよね。今の子供たちって
隣の家の人でも“遠い大人”じゃないですか。
でもこの活動を通して子供たちが、ボラン
ティアで関わってくれている大人を、〇〇さ
んと名前でご話しかけてたりして…。実は私
も子供たちから、つよし君と呼ばれていま
す(笑)自分自身もこの活動を通して地域の
ネットワークが広がりましたしね。

 **まさえさん**
わかるわかる。地域の人を、
子供が親に紹介していたりして(笑)。そこ

でまた新しいつながりができるんですよ
ね。先日はお父さんボランティアが高
学年の男の子たちと公園で野球をした
という話を聞いて、なんだか心がほん
わかししました。

 **ようこそさん**
つなぐといえば私は、まち探検
を通して商店街と子供たちをつないだん
です。普段は郊外の大きなスーパーに行き
がちな子供たちが地元の商店街を知ること
で、地元商店街の良さだったり課題を自分
事として考えることができたみたいです。商
店街の将来を考えて「絶対にまたここで買
い物をするからね!」と使命感に燃えている
子供もいたりしてね(笑)。その後商店街で
は子供たちのために“子供専用スタンプカ
ード”を企画したんです。お店で何も買わな
くても、商店街を巡ってスタンプを5つ集め
るとかき氷がもらえる企画。お店の人と子供
たちの会話も生まれるし、商店街も子供た
ちも大喜びだったなあ♪

学校から地域づくりに 広がる輪

 **ちづるさん**
人とのつながりもそうだけど、
地域の伝統を未来につなぐことも大切だ
すよね。学校の授業で伝統神楽を学んだ子
供たちが、なんと自ら保存会の練習に来る
ようになったんです。保存会の人たち褒め
上手なんですよ。地域の大人に褒めても
らうと子供たちもすごくやる気が出るみた
いで…。着々と担い手が育っていますよ。学校
と地域の学びの連携って大切ですね。

 **ようこそさん**
そうですね。私の地域では、
みこしの担ぎ手の後継者が育っています。
授業で、商店街の人の「今年はおみこしを
担ぐ人が足りないんだよ」の言葉に、子供
たちが『じゃあ、僕が担ぎ手やる!』って(笑)。
地域行事に子供たちが参加するだけで活気
づきますよね。地域と学校が連携した教育
活動は、子供たちの成長につながるだけで
なく、子供たちの姿を通して地域の大人たち
が変わると実感しています。まさに地域全
体の教育力の向上ですよ。

つなげる、つながるという 活動のやりがい

 **まさえさん**
信じられないかもしれないけ
れど、最初の頃は私、地元の方へ遠慮が
ちに声掛けをしていたんですよ。でも、声
掛けをした方々から「地元の学校に恩返し
ができてうれしかった」と言われることが
すごく多くて…。そうか、地域には学校の
ために何かをしたいという人たちがたくさん
いるんだということに気がついたんです。
それから、より多くの人に活躍の機会を
作るようにじゃんじゃん声掛けしてい
ます。

 **ちづるさん**
確かに地域の人たちは学校
や子供たちと接したがついていますよね。
地域の高齢者から「今は孫とも離れて暮
らしてて子供と関わることは少ないから、
子供たちと触れ合うと元気になる。」な
んていうお声をいただくとうれしくて、
コーディネーターとしてのやりがいを感じ
ますね。子供たちと接する度にみんなど
んどん若返っていく感じがしています。
子供たちにはアンチエイジング効果があ
るのかしら(笑)

 **まさえさん**
そういえばちづるさんも若い…
(笑)人生100年時代ですもんね。でも、
進学や就職で地元を離れてしまう若者も
多い

じゃないですか。それでいて戻ってくる人
は少ない。結果、地域はどんどん高齢化
するばかり…。子供たちと接することすら
難しくなってしまうですね。

 **ちづるさん**
そうなんですよ。だからこそ、
子供時代に地域で楽しく過ごす原風景を
つくるのが大事なんですよ。私自身も、
子供の頃の思い出が詰まったこの地域に
すごく愛着を感じているもの…。

 **つよしさん**
小学校って、いつの時代も地域の“核”
ですよ。卒業生はもちろん、その保護者や
地域の人たちの心のよりどころや心の
ふるさとになってるんじゃないかと思うん
ですよ。でも、年を重ねるごとに関わる
機会がなくなってしまうんですよ。だか
らこそ、我々コーディネーターの出番なの
かなと思うんです。学校と地域をつなぐ
ことで、一緒に子供たちを育てるお手伝
いをしたいですね。

コーディネーターの これから

 **ようこそさん**
今日の皆さんの話を聞いて改めて感じ
ましたが、活動すればするほどやりがい
を感じると同時に、コーディネーターに
は専門性が必要なんじゃないかと思い始
めてます。地域や学校でコーディネーター
という立場が確立され、職業として認め
られたらもっとやりやすくなるし、もっ
といるんなことができるのにと思ったり
します。皆さんはどうですか？

 **ちづるさん**
同感です。コーディネーターは裏方、
舞台で言えば黒子です。だから、どんな
役割をしているのか伝わらないと協力を
得るのに苦労することがありますね。私
たちの活動や役割が見える化され、より多

くの人にコーディネーターについて理解
してもらえたらとてもやりやすいと思い
ます。コーディネートの仕方によって、
子供たちのための活動が大きく左右する
こともあるので、やはり専門性は必要だ
すよね。

 **つよしさん**
今日皆さんと話をし、やはりこのよう
な地域を超えたコーディネーター同士
のつながりって大事だなと感じました。
コーディネーターは、孤軍奮闘している
ことも多いじゃないですか。特にならた
ての頃は周りに理解されなかったり、関
係性を築けていなかったりすると孤独を
感じたりして。現場によって状況は違
うし、子供たちも先生も、ボランティア
もいろいろ。コーディネーターに判断が
求められることも多いし、「あれで良か
ったのかな?」と悩むこともあります。
そんな時に同じ立場のコーディネーター
同士で情報交換ができると心強いです
ね。経験者からのアドバイスや、一緒
に解決策を考えてくれる仲間がいるこ
とはとても励みになります。

 **まさえさん**
コーディネーターの専門性やつながり
の問題に加え、私はまだまだ活動する
上で仕組みができていないなということ
も感じますね。同じ自治体の中で活動
の地域間格差が生じていることも気にな
ります。それが、結果的に子供たちの
学びや体験格差につながって、学力や
社会で生きる力を育むことにも影響し
ているんじゃないかと思うのだけれど。
ここの格差を埋めるためにもやはり我
々コーディネーターの役割は重要だ
すよね。

 **ちづるさん**
確かにね。いろんなことが見えてき
ましたね。今日は皆さんと話せて本当
に良かったです。宮城の子供たちの笑
顔や成長につながるようにこれからも
一緒に頑張っていきましょう!えいえい
おー!

(思いや、やりがいを共有し、いつも以上
に気合が入る4人であった…)

地域学校協働活動推進までの動き

「地域学校協働活動」の推進に至るまでの国の動きと宮城県の動きを連動させてご紹介します。

太字：法律等 「」：具体的施策, 事業 □：押さえておきたいキーワード

	国の動き	宮城県の動き
平成 17 年度		【みやぎらしい協働教育】 「協働教育推進事業」 地域と学校をつなぐ仕組み・組織をつくり、家庭・地域と学校の協働の取組を行政がしっかりと支えていく
平成 18 年	教育基本法の改正 「学校・家庭及び地域住民等の相互の連携協力」の規定が新設	協働教育推進事業 コラボスクール推進事業 起業教育推進事業
平成 20・22 年度	文部科学省「学校支援地域本部事業」 学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子供を育てる体制を整えること。学校教育の充実、生涯学習社会の実現、地域の教育力の向上	「学校支援地域本部事業」
平成 23 年度	文部科学省「学校・家庭・地域の連携協力推進事業」	【みやぎの協働教育】 「協働教育推進総合事業」 家庭・地域・学校が相互に連携し支え合いながら強い絆で協働し、子どもを育てる仕組みづくりを積極的に推進して家庭・地域の教育力の向上を図り、地域全体で子どもを育てる体制の整備を図る 協働教育基盤形成事業 協働教育普及振興事業 教育応援団事業 協働教育プラットフォーム事業 (・コーディネーターの配置・家庭教育支援・地域活動支援・学校教育支援)
平成 27 年 10 月 平成 27 年 12 月		「みやぎの協働教育」の今後のあり方（意見書） 『協働力』の育成 コミュニティづくりや地域おこしを進めるためには、「地域課題に対して主体的に働き掛け、多様な人々と協働しながら課題を解決する力」が地域に求められる
平成 28 年 1 月 25 日	中央教育審議会「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について（答申）」 地域学校協働活動の推進と地域学校協働活動本部を全国に整備	
平成 28 年 12 月 平成 29 年 3 月	文部科学省『「次世代の学校・地域」創生プラン」策定 中央教育審議会（答申） 社会に開かれた教育課程の実現 社会教育法の改正 地域学校協働活動を実施する教育委員会が地域住民等と学校との連携協力体制を整備すること、地域学校協働活動に関し、地域住民と学校との情報共有や助言等を行う「地域学校協働活動推進員」の委嘱に関する協定の整備 「地域学校協働活動」	第 2 期宮城県教育振興基本計画 策定 ～志を育み、復興から未来への創造へ～ 「宮城県協働教育推進総合事業」 家庭・地域・学校が連携・共同して子供を育てる環境づくりを掲げ、地域と学校が連携・協働の元、一体となって子供を育む「地域学校協働活動」の推進と、活動を支える「地域学校協働本部」の組織化 協働教育基盤形成事業 協働教育普及振興事業 教育応援団事業 放課後子ども総合プラン推進事業 地域学校協働活動推進事業 (・コーディネーターの配置・地域学校協働本部の設置・家庭教育支援活動・地域活動・学校支援活動・放課後子ども教室)

- 地域学校協働活動の推進に係る参考情報
- 学校と地域でつくる学びの未来（文部科学省・厚生労働省 地域学校協働活動のサイト） <http://manabi-mirai.mext.go.jp>
 - 地域学校協働活動の推進に向けたガイドライン（文部科学省 平成 29 年 4 月発行）
[http://manabimirai.mext.go.jp/assets/files/gaidorain\(tiikigakkoukyoudoukatsudounosuishinnimuketa\).pdf](http://manabimirai.mext.go.jp/assets/files/gaidorain(tiikigakkoukyoudoukatsudounosuishinnimuketa).pdf)
 - 地域学校協働活動ハンドブック（文部科学省 平成 30 年 1 月発行） <http://manabi-mirai.mext.go.jp/assets/files/H29doyo/H29handbook.pdf>
 - 地域学校協働活動パンフレット（文部科学省 平成 30 年 1 月発行）
<http://manabi-mirai.mext.go.jp/assets/files/H29kikaku/180118tiikigakkoukyoudoukatsudoupanhuretto.pdf>
 - はじめよう！「地域学校協働活動」（宮城県教育委員会 平成 29 年 11 月発行） <http://www.pref.miyagi.jp/site/kyodo/issuelist.html>



はじめよう！やってみよう！地域学校協働活動
地域と学校をつなぐ コーディネーター応援 BOOK

【推進会議メンバー】

- | | |
|--------|--|
| 赤川 泉美 | 名取市教育委員会 生涯学習課 社会教育指導員 |
| 阿部 久美子 | 登米市教育委員会 米山地区協働教育コーディネーター |
| 伊勢 みゆき | 特定非営利活動法人まなびのたねネットワーク 代表理事 |
| 大場 綾 | 特定非営利活動法人まなびのたねネットワーク 事務局 |
| 鹿野 恵美子 | 仙台市立東六番丁小学校 学校支援地域本部 スーパーバイザー |
| 西條 紀子 | 登米市教育委員会 津山地区協働教育コーディネーター |
| 千葉 加代 | i×D works 代表（前 登米市教育委員会 生涯学習課 社会教育指導員） |
| 波多野 ゆか | 大崎市 協働活動コーディネーター |
| 松田 ゆう子 | 柴田町教育委員会 生涯学習課 しばたっ子応援団コーディネーター |

50 音順 平成 31 年 3 月末現在

発行 特定非営利活動法人 まなびのたねネットワーク
〒980-0811 宮城県仙台市青葉区一番町 1 丁目 6-22 シャンボール一番町 704
TEL 022-707-0122 FAX 022-707-0497 E-mail info@manabinotane.net

平成 31 年 3 月 第 2 版 発行

平成 30 年度 仮設住宅の再編等に係る子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業費補助金
（地域学校協働活動推進事業（NPO 等））